

1. 研修期間情報

(1) 法人情報

①法人格・法人名称・住所等

株式会社グレート 石川県金沢市本町 1-5-1 リファーレ 1 F

②代表者名、研修事業担当理事・取締役名

代表取締役 川島康将

(2) 研修期間情報

①事業所名称・住所等

株式会社グレート 石川県金沢市本町 1-5-1 リファーレ 1 F

②理念

介護サービスを実践するために必要な基本的な知識・技術を習得するとともに、職業倫理・態度を養成し、さらなるキャリア向上を目指す十分な意欲向上心を持って、福祉施設・病院等での介護業務および訪問介護サービス業務、その他の高齢者・障害者福祉サービスに関する業務で活躍しうる人材の養成を目的とする。

③研修施設、設備

名 称	グレート 野々市研修センター	
所 在 地	野々市市御経塚 2-259 ヒューゲルビル 2F	
面 積	55.90 m ²	
収容人員	10 名	
使用備品 一 覧	福祉用具等の名称	数 量
	介護用ベッド	2 台
	回転式介助バー	2 台
	車椅子	2 台
	浴槽	1 台
	シャワーチェア	1 台
	バスボード	1 台
	ポータブルトイレ	1 台
	尿器	2 個
	おまる (差し込み便器)	1 個
	杖	2 本
	水銀血圧計	1 台
	デジタル血圧計	2 台
体温計	3 個	

2. 研修事業情報

(1) 研修の概要

①学則

学 則

1. 目的

福祉・介護施設、病院等での介護業務および訪問介護サービス業務に従事、また介護報酬請求など介護事務業務を遂行できる基本的な知識、技術、意識を習得し、福祉分野への就労意識を高め、施設等から入社後のキャリア向上を期待される人材の養成を目的とする。

2. 実施主体

(1) 所在地：石川県金沢市本町 1-5-1 リファール 1F
(TEL 番号：076-262-9010 FAX 番号：076-263-7227)

(2) 法人名：株式会社グレート

(3) 代表者名：代表取締役 川島 康将

3. 研修事業の名称

「ケアワーカー事務科」とする。ただし、職業訓練主催者との協議等により、名称の一部を変更する場合がある。

4. 実施場所

グレート 野々市研修センター

所在地：石川県野々市市御経塚 2-259 ヒューゲルビル 2F
TEL 076-262-9010 FAX 076-263-7227

5. 研修期間

平成30年11月28日～平成31年2月27日

6. カリキュラムおよび担当講師名

別紙のとおり実施する。

7. 受講対象者および定員

(1) 原則として以下の要件を満たす方とする。

- ①介護職を目指しているか、介護に強い関心・意欲を持つ離職者または求職者
- ②石川県内に在住で、無理なく通学可能な方
- ③石川県が設定する該当職業訓練科の受講条件を満たす方

(2) 定員は10名とする。

8. 研修参加費用

(1) 受講料

職業訓練としての開講につき、受講料は無料とする。

(2) テキスト費、その他

テキスト費：10,800円（税込）

訓練生保険料：3,000円＋振込手数料（任意加入）

※＜受験希望者のみ＞介護事務管理士 受験料：6,500円

※職業訓練カリキュラムにおける実習先への交通費は、実費自己負担とする。

9. 受講手続き

職業訓練の所定の手続きにより、公共職業安定所等を通じて申込みものとし、書類選考および面接にて選考を行ったうえで受講者を決定する。

なお、テキスト費は原則として開講初日に納入するものとする。

10. 本人確認の方法

受講者に対し、受講申込受付時または初回の講義時に下記の方法により本人確認を行う。

＜運転免許証・パスポート・学生証・国家資格等の免許証または登録証・健康保険証・年金手帳・戸籍謄本・戸籍抄本・住民票・住民基本台帳カード・在留カード等のいずれかの提示＞

11. 補講の実施方法および費用

一部を欠席した場合もしくは知識・技術の習得が十分でないと認められる場合は、該当者のみを対象とした個別の講義・演習により補講を行う。ただし、欠席した時間数が石川県の定める時間数を越えない範囲については、課題の提出にかえる場合がある。

なお、補講の費用は無料とする。

12. 研修修了の認定方法

次の条件をいずれも満たした者を修了者として認定する。

①研修の全課程を受講した者（※欠席等に関しては、11.に記載の要件を満たした者）

②次の評価基準を満たした者

- ・ 修了評価テスト（筆記）において、概ね70%以上得点した者
- ・ 介護技術演習内容の個別評価において、概ね70%以上の習得度を満たした者
- ・ 受講態度および意欲が、修了に値すると認められる者

③原則として、職業訓練の修了要件を満たした者

②研修目標・時間数・講師名

科目名	実施日	時間数	講師氏名	講師要件該当資格	研修実施会場
1. 職務の理解					
1-1 多様なサービスの理解	11/29	4	石林 秀男	介護福祉士	
1-2 介護職の仕事内容や働く現場の理解	11/29 11/30	2 3	石林 秀男 石林 秀男	介護福祉士 介護福祉士	
2. 介護における尊厳の保持・自立支援					
2-1 人権と尊厳を支える介護	12/4	6	山根 香織	看護師・介護支援専門員	
2-2 自立に向けた介護	12/11	6	山根 香織	看護師・介護支援専門員	グレート野々市研修センターD室
3. 介護の基本					
3-1 介護職の役割、専門性と多職種との連携	11/30	3	鷺森 静代	介護福祉士	
3-2 介護職の職業倫理	12/6	2	鷺森 静代	介護福祉士	
3-3 介護における安全の確保とリスクマネジメント	12/6	2	鷺森 静代	介護福祉士	
3-4 介護職の安全	12/6	2	鷺森 静代	介護福祉士	
4. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携					
4-1 介護保険制度	12/17	3	山根 香織	看護師・介護支援専門員	
4-2 医療との連携とリハビリテーション	12/3	6	守山 幸子	看護師	
4-3 障害者自立支援制度およびその他制度	12/17	3	山根 香織	看護師・介護支援専門員	

5. 介護におけるコミュニケーション技術					
5-1 介護におけるコミュニケーション	1/4	6	李沢 佳奈	介護福祉士	
5-2 介護におけるチームのコミュニケーション	1/16	6	李沢 佳奈	介護福祉士	
6. 老化の理解					
6-1 老化に伴うこころとからだの変化と日常	12/19 12/26	3 6	守山 幸子 守山 幸子	看護師 看護師	グレート 野々市研修 センター D室
6-2 高齢者と健康	12/27	6	守山 幸子	看護師	
7. 認知症の理解					
7-1 認知症を取り巻く状況	12/13	1	石林 秀男	介護福祉士	
7-2 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	12/13	3	石林 秀男	介護福祉士	
7-3 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	12/13	2	石林 秀男	介護福祉士	
7-4 家族への支援	12/26	3	石林 秀男	介護福祉士	
8. 障害の理解					
8-1 障害の基礎的理解	12/18	1	林 友子	看護師	
8-2 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	12/18	4	林 友子	看護師	
8-3 家族の心理、かかわり支援の理解	12/18	1	林 友子	看護師	

<p>9. ころとからだのしくみ と生活支援技術</p> <p>①基本知識の学習</p> <p>9-1 介護の基本的な考え方</p> <p>9-2 介護に関するころのしくみ の基礎的理解</p> <p>9-3 介護に関するからだのしくみ の基礎的理解</p> <p>②生活支援技術の講義・演習</p> <p>9-4 生活と家事</p> <p>9-5 快適な居住環境整備と介護</p> <p>9-6 整容に関連したころとから だのしくみと自立に向けた介 護</p> <p>9-7 移動・移乗に関連したころ とからだのしくみと自立に向 けた介護</p> <p>9-8 食事に関連したころとから だのしくみと自立に向けた介 護</p> <p>9-9 入浴、清潔保持に関連したこ ころとからだのしくみと自立 に向けた介護</p> <p>9-10 排泄に関連したころとから だのしくみと自立に向けた介 護</p> <p>9-11 睡眠に関連したころとから だのしくみと自立に向けた介 護</p>	<p>12/7</p> <p>12/7</p> <p>12/12</p> <p>1/7</p> <p>1/8</p> <p>12/20</p> <p>12/14</p> <p>12/21</p> <p>12/28</p> <p>12/25</p> <p>1/5</p>	<p>3</p> <p>3</p> <p>6</p>	<p>林 友子</p> <p>林 友子</p> <p>守山 幸子</p> <p>鷺森 静代</p> <p>李沢 佳奈</p> <p>鷺森 静代</p> <p>鷺森 静代</p> <p>林 友子</p> <p>林 友子</p> <p>林 友子</p> <p>林 友子</p>	<p>看護師</p> <p>看護師</p> <p>看護師</p> <p>介護福祉士</p> <p>介護福祉士</p> <p>介護福祉士</p> <p>介護福祉士</p> <p>介護福祉士</p> <p>看護師</p> <p>看護師</p> <p>看護師</p> <p>看護師</p>	<p>グレート 野々市研修 センター D室</p>
--	--	--	--	---	---------------------------------------

9-12 死にゆく人に関連したこころ とからだのしくみと終末期介 護	1/11	6	林 友子	看護師	グレート 野々市研修 センター D室
③生活支援技術演習 9-13 介護過程の基礎的理解	1/15	6	林 友子	看護師	
9-14 総合生活支援技術演習	1/17	6	林 友子	看護師	
10. 振り返り 10-1 振り返り	1/22	3	林 友子	看護師	
10-2 就業への備えと研修修了後 における継続的な研修	1/22	3	林 友子	看護師	

③指導者数

6名

(2) 課程編集者責任者

西沢瑞香

(3) 研修カリキュラム

科目の細目	講義と演習の実施方法
1. 職務の理解 (9時間)	
多様なサービスの理解 (4時間)	介護保険サービス(居宅・施設)や介護保険外サービスについての講義を行い、多様なサービスについてDVDを視聴し理解を深める。
介護職の仕事内容や働く現場の理解 (5時間)	居宅・施設サービスの仕事内容を説明し、事例に基づいて介護サービス、環境の現状等を理解する。
2. 介護における尊厳の保持・自立支援 (12時間)	
人権と尊厳を支える介護 (6時間)	人権の定義を説明、その背景としてQOL、ADL、ノーマライゼーションの理解、事例に基づいてQOL向上についての講義を行う。

自立に向けた介護 (6時間)	自立支援の理念とは何か、事例をいくつか取り上げて「生きがい」「できること」「できるようになりたい」そう思える意欲を引き出すような支援について意見を出し合う。
3. 介護の基本 (9時間)	
介護職の役割、専門性と多職種との連携 (3時間)	生活の場を支える介護者として専門性と様々な職種・それぞれの専門性を説明し、連携の必要性を学ぶ。
介護職の職業倫理 (2時間)	日本介護福祉士会倫理綱領を読み、事例を用い介護職に必要な倫理をグループワークで考える。
介護における安全の確保と リスクマネジメント (2時間)	サービス提供時の事故や感染の予防について具体例を挙げ、事例に基づいた対処法・安全対策について説明する。
介護職の安全 (2時間)	介護職の健康と安全について、こころと身体の両面を考え、こころのケアについての講義を行う。
4. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (12時間)	
介護保険制度 (3時間)	介護保険制度の目的・サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について説明し、家族が要介護状態になったらどこに相談するか、どのような手続きを行えばよいか理解する。
医療との連携とリハビリテーション (6時間)	医療機関との連携、リハビリテーション、医行為と介護について講義後、介護職員が行える医行為についてどんなことに注意しなければならないか説明する。
障害者自立支援制度およびその他制度 (3時間)	ICFの説明、障害者福祉の理念、ノーマライゼーションについて、障害者自立支援制度の構造、現状、生活保護、青年後見虐待防止、個人情報保護法についての説明を行った上で、もし自分の住んでいる地域で虐待を疑われる高齢者の世帯がいたらどのように対処するかグループワークを行う。
5. 介護におけるコミュニケーション技術 (12時間)	
介護におけるコミュニケーション (6時間)	介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割を理解した上で、利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術について説明する。
介護におけるチームの コミュニケーション (6時間)	記録・報告・連絡・相談の重要性を学び、事例に基づき、グループで「申し送り」の実践を行う。

6. 老化の理解（15時間）	
老化に伴うこころとからだの変化と日常（6時間）	加齢老化に伴う心身の変化や疾病について具体例を挙げ、その対応における留意点を説明する。
高齢者と健康（6時間）	老化に伴う心と体の変化について日常生活においてどんな介護が必要になるのかについてディスカッションを行う。
7. 認知症の理解（9時間）	
認知症を取り巻く状況（1時間）	認知症ケアの理念を確認後、なぜ周囲の人が困るかを説明し、そこから本当に困っている人は誰か？何か？を認知症を抱えた方であることにつなげ、何も出来ない人ではないということを学習する。
医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理（3時間）	認知症の概念、医学的側面からみた状態を説明し、障害がおこるとどう変化するかを考える。BPSDがなぜおこるかを説明し、廃用症候群について具体例をあげて理解する。
認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活（2時間）	中核症状とBPSDを説明、実際にもし自分にその様な症状がおこったら、どう行動するかを考え、対処方法や関り方を学ぶ。
家族への支援（3時間）	介護家族の負担感、困ることをグループワークであげたあと、どうすれば家族が安心できるかを更にグループワークで深めていく。
8. 障害の理解（6時間）	
障害の基礎的理解（1時間）	障害はマイナスではないという概念のもと障害者（児）の精神的、身体的視点に基づき、健康状態や機能等について理解し、介護にあたってはICFの考え方を学習することで、一人ひとりにあった支援が出来るようにする。ノーマライゼーションの理念を理解し、健全な介護サービスが提供できるように学習する。
障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かわり支援等の基礎的知識（4時間）	様々の障害において夫々の疾病や症状に対し、その病態や予防対策など医学的に説明する、介護においては、心理・行動の特徴など障害（児）を正しく理解し、介護の基本的姿勢を学習した上で、自閉症（子供）の支援について講義を行う。

<p>家族の心理、かかわり支援の理解 (1時間)</p>	<p>障害者(児)の家族支援は、その家族の心理をよく理解し受容することであり、介護負担の軽減など、家族にも寄り添うことの重要性を学習した上で、障害者(児)を支える家族のレスパイトについて、そのサービス・ケア等のディスカッションを行う。</p>
<p>9. ころとからだのしくみと生活支援技術 (76時間)</p>	
<p>介護の基本的な考え方 (3時間)</p>	<p>利用者を主体とする介護の必要性についての基本的知識をテキスト及びスライドで学習し、事例について説明する。</p>
<p>介護に関するころのしくみの基礎的理解 (3時間)</p>	<p>高齢者・障害者の生活を支えるために必要な基本的知識をテキスト及びスライドで説明した上で受講者自身の「自己懸念」について書き、理解を深める。</p>
<p>介護に関するからだのしくみの基礎的理解 (6時間)</p>	<p>人体の構造や機能についてテキストに基づいて説明し、介護の流れを示しながら、具体的な身体の各部の名称や機能等を学習する。</p>
<p>生活と家事 (6時間)</p>	<p>その方の生活歴を知り、その方らしさを大切にしながら援助に必要な技術と知識を学習し、生活支援としての家事サービスについて具体例をグループ討議する</p>
<p>快適な居住環境整備と介護 (6時間)</p>	<p>快適な生活を送るために必要な居住環境の整備や利用者が生活の各場面で活用できる福祉用具(機器)を説明し理解した上、福祉用具情報プラザへ見学に行き、介護・福祉用具の種類や用途について学ぶ。</p>
<p>整容に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護 (6時間)</p>	<p>利用者のアクティブティな気持ちを引き出し支える基本的知識をテキストとDVDで説明し、イメージした上で事例演習を行う。</p>
<p>移動・移乗に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護 (6時間)</p>	<p>安全で安楽な介護を行うために必要な基本的知識をテキストとDVDで説明し、イメージした上で事例演習を行う。</p>
<p>食事に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護 (6時間)</p>	<p>安全で楽しく食べるために必要な基本的知識をテキストとDVDで説明し、イメージした上で事例演習を行う。</p>
<p>入浴、清潔保持に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護 (6時間)</p>	<p>きれいで生活が送れるような介護に必要な基本的知識をテキストとDVDで説明し、イメージした上で事例演習を行う。</p>
<p>排泄に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護 (6時間)</p>	<p>すっきり爽快になる介護に必要な基本的知識をテキストとDVDで説明し、イメージした上で事例演習を行う。</p>

睡眠に関連したところとからだのしくみ と自立に向けた介護 (6時間)	ゆっくり気持ちよく休められる介護に必要な基本的知識をテキストとDVDで説明し、イメージした上で事例演習を行う。
死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護 (6時間)	死に行く人の尊厳と家族ケアを医療と連携しケアする基本的知識をテキストとスライドで事例を用いて説明する。その後、「死生観」についてグループワークを行い発表する。
介護過程の基礎的理解 (6時間)	チームケアのメンバーとして、介護過程の展開ができるようにテキストとスライドで説明し、グループで事例を展開し発表する。
総合生活支援技術演習 (6時間)	テキストの事例集を参考にグループ毎に検討し、介護手順を確認した上で実技を行う。 その後、グループで演習内容に沿って話し合い、介護場面毎に考察する。
10. 振り返り (6時間)	
振り返り (3時間)	個別に「振り返り」用紙で全過程の振り返りを書いて頂き、解答に基づいた講義を行う。その後、必要に応じて個別面談を行う。
就業への備えと研修修了後における継続的な研修 (3時間)	チームケアを実施する上で、専門職としての自分自身を向上させるためにも、Off-JT, OJTの取り組み事例を紹介する。
合計	168時間

(4) 終了評価の方法

評価項目	評価方法	評価者	時期
修了評価	●筆記試験	筆記試験 担当講師	全科目終了後
生活支援技術の 修得評価	●評価シートを使用した 個別評価 ●受講態度・意欲 等	該当科目 担当講師	技術演習 期間中

3. 講師情報

講師名	略歴・現職	資格
石林 秀男	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職 ・支援、医療相談員 ・介護教員 ・弊社介護員養成講座非常勤講師（現職） 	<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉士 ・社会福祉士 ・介護福祉士 ・介護支援専門員
守山 幸子	<ul style="list-style-type: none"> ・看護職 ・弊社介護員養成講座非常勤講師（現職） 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師
林 友子	<ul style="list-style-type: none"> ・看護職 ・介護員養成講座、講師 ・弊社介護員養成講座非常勤講師（現職） 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師
鷺森 静代	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職 ・弊社介護員養成講座非常勤講師（現職） 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士
李沢 佳奈	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職（現職） ・弊社介護員養成講座非常勤講師（現職） 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士
山根 香織	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師（現職） ・ケアマネージャー、生活相談員 ・弊社介護員養成講座非常勤講師（現職） 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師 ・介護支援専門員

4. 実績情報

① 過去の研修実施回数＜過去3年間＞

H27年度：7回＜介護職員初任者研修＞

H28年度：8回＜同上＞

H29年度：3回＜同上＞

② 過去の研修延べ参加人数＜過去3年間＞

H27年度：44名＜介護職員初任者研修＞

H28年度：36名＜同上＞

H29年度：22名＜同上＞

5. 連絡先等

① 申し込み・資料請求先

株式会社グレート TEL 076-262-9010

②法人及び事業所の苦情対応者名・役職・連絡先

西沢瑞香（特命課）、TEL 076-262-9010